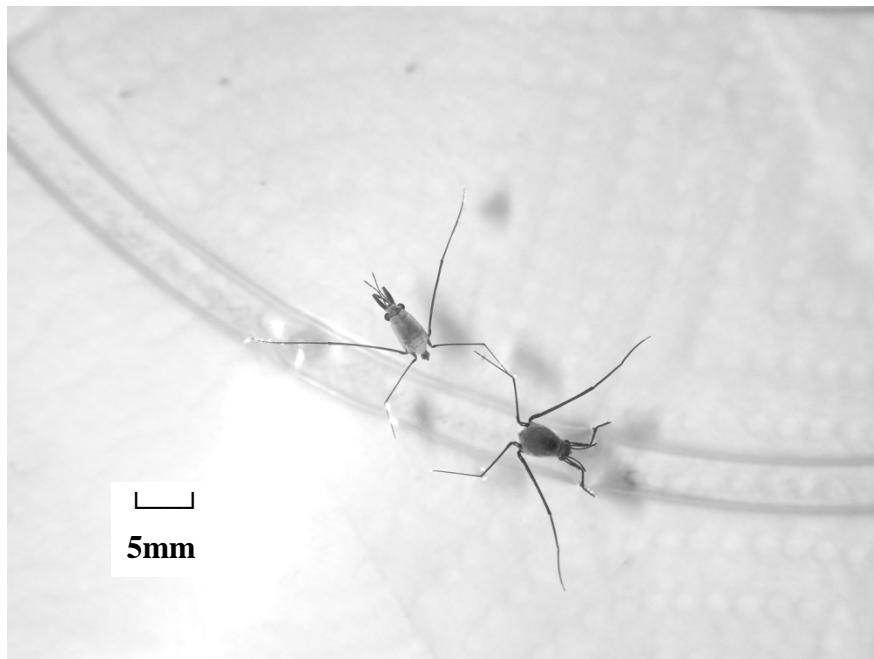


## 「みらい」10 航海から見える太平洋・インド洋熱帯棲ウミアメンボ類の 採集密度と天気、温度、海流との関係性

○原田哲夫・古木隆寛（高知大・院・環境生理）・中城満（高知大・院・理科教育）・  
片桐千仞（東京電気大）・Vladimir Košťál (Czech Academy of Sciences)

海洋研究開発機構所蔵の研究船「みらい」には MR06-02 次航海から、MR16-08 次航海まで、ほぼ毎年、計 10 回に渡りウミアメンボ研究で乗船させていただき、サンプリングを継続的にこなってきた。サンプリング法としては、横幅 130cm、長さ 600cm の箱型ニューストーンネットを日没後すぐの時間帯に、15 分 1 セットで船速 2.0knot で曳行しながら、右舷側からスポットライトを当てるという方法で、1 晩に 3 セット行った。調査海域は、西太平洋北緯 20 度から南緯 20 度、東経 130-165 度、及び東熱帯インド洋、北緯 10 度～南 6 度、東経 70～90 度の範囲の熱帯域を中心にサンプリングを積み重ねた。

長年のサンプリング経験から、サンプリング時の天候によって、降雨の場合、ウミアメンボ個体数の採集密度が下がる印象を受けていた。航海ではサンプリング時の天気、表年水温、甲板上気温、海流速度を常にクルーズレポートに記録していた。そこで、「みらい」10 航海に加えて「白鳳丸」によるここ約 10 年間に行われた約 5 航海も含め、サンプリングされたウミアメンボ類の種類、個体密度と天気、温度、海流速度などとのデータとの関係を 10 航海に渡るデータを解析し、明らかにする。



図：MR08-02 航海中にサンプリングで採集された外洋棲ウミアメンボ成虫個体（左：*Halobates* sp.雄個体、右：*Halotetes micans*=ツヤウミアメンボ雌個体）。雄の外部生殖器（ペニス）が見える。*H. micans* は中肢が際立って太いのが特長。